

令和6年食中毒発生状況について

令和7年3月26日、厚生労働省 厚生科学審議会(食品衛生監視部会)において報告されました令和6年食中毒発生状況について、概要を説明いたします。

1 令和6年食中毒発生状況

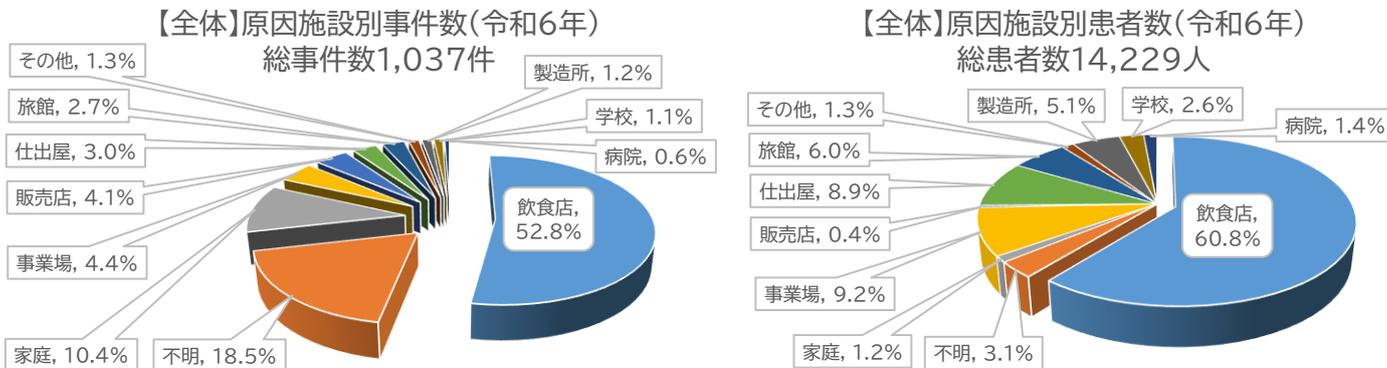
食中毒事件数は**1,037件**で、前年に比べ16件増加し、**患者数は14,229人(死者3人含む)**で前年に比べ2,426人増加しました。令和6年の大規模食中毒(500人以上)の事例は、「湧水や湧水を使用し提供された食事」の1件でした。死者の報告された食中毒事例は2件で、2件とも自然毒(植物性自然毒)でした。

都道府県	発病年月日	原因施設種別	原因食品名	病因物質種別	患者数	死者数	接食者数	死者年齢
1 大分県	2024/8/4	飲食店	湧水、飲食店提供料理(8月3日~13日に提供された食事)	ノロウイルス(ウイルス)	595	0	1,304	-
1 札幌市	2024/4/23	家庭	イヌサフラン(推定)	植物性自然毒(自然毒)	2	2	2	男:50~59歳 男:70歳~
2 長野市	2024/7/21	事業場 寄宿舎	7月20日の夕食として調理した野生キノコ(ドクツルタケ、コテングタケモドキ)(推定)	植物性自然毒(自然毒)	1	1	1	男:20~29歳

2 原因施設別食中毒発生状況

原因施設が判明した事例のうち、**事件数では飲食店が548件**(前年より59件増加)と一番多く、次いで、家庭108件、事業場46件、販売店42件、仕出屋31件、旅館28件の順となりました。

患者数においても、飲食店が8,656人(前年より2,129人増加)で最も多く、次いで、事業場1,310人、仕出屋1,268人、旅館855人、製造所726人、学校366人の順となりました。



3 病因物質別食中毒発生状況(TOP3)

病因物質別に見ると、**事件数が最も多かったものはアニサキスで330件**(前年より102件減少)、次いで、ノロウイルスの276件(同113件増加)、カンピロバクターの208件(同3件減少)となりました(前年はアニサキス、カンピロバクター、ノロウイルスの順)。

患者数は、ノロウイルスが最も多く8,656人(前年より3,154人増加)で、全体(14,229人)の 60.8%を占めています。(参考資料 令和7年3月26日 厚生労働省 厚生科学審議会(食品衛生監視部会)食中毒発生状況より抜粋)



登録衛生検査所
株式会社 中央微生物検査所
環境サービス事業部

<http://www.chubi.co.jp/>
E-mail shoku@chubi.co.jp

本 社

東京営業所

〒536-0008 大阪市城東区関目5丁目22番23号
TEL.(06)6939-1044
FAX.06-6939-2350

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番10号コスモタワービル10階
TEL.(03)5472-7551
FAX.03-5472-7552

